

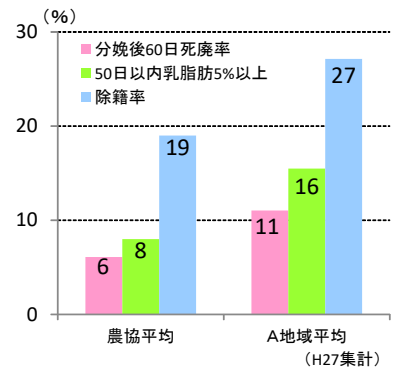
基本技術の見直しで周産期管理改善

～ストレスなく食える、飲める、休める環境で疾病低減～

(中標津町)

1 活動の背景

酪農を取りまく様々な情勢に左右されない酪農経営を確立するためには、乳牛頭数の安定確保が欠かせない。しかしながら、乳牛の個体乳量の向上に伴い、様々な疾病、特に周産期疾病が増加している。支所管内のある農協のA地域においては、これらに起因する乳牛除籍率が悪化しており、周産期管理の改善に取り組む必要があった。



2 活動の内容

周産期につながる様々な要因について、個々の農場ごとに具体的な解決策を提案し、実際に取り組んでもらえるよう支援した。

(1) 乾乳牛の飼養管理改善

B農場から「今年は夏の分娩が多いので対策をしておきたい」との話があり、暑熱対策を中心に周産期管理の改善に取り組んだ。翌年、ほ育舎を乾乳後期牛群用の施設に改造した。

取組内容

H27. 6～ 乾乳前期・分娩房の改造

- ① 乾乳前期群に防風ネットを取付
日陰を作り、日差しを緩和
- ② 分娩房に換気扇を取付
真下に向けて3台の換気扇を取付



B農場で改造したほ育舎の概要



H28. 4～ ほ育舎の改造

- ① 牛床マットの敷設
厚さ3cm程度のゴムマットを
飼槽通路以外全面に敷設
- ② 換気扇の取付
真下に向けて2台の換気扇を取付
真夏はドアを開放し、入気を確保
- ③ スタンションの取付・改造
角材で飼槽隔壁を高くし、スタンションを取付



しかし...



取り付けしたスタンションの幅が狭く、頭の圧迫を嫌がって使いたがらない牛もいた

乾物摂取量の低下が懸念



スタンション両端の縦柵を撤去し、飼槽へのアクセスを改善!

飼養管理の改善

- ① 敷料をたっぷり入れる
- ② 複数頭で、分娩まで移動しない
- ③ 乾乳後期の群分け
施設に余裕ができ、初妊と経産の別管理が可能になった

(2) 周産期における乾物摂取量の向上

C農場では乳牛のモニタリングの結果、乾物摂取量の不足が懸念されたため、この制限要因を取り除く方法について検討した。

取組内容

H28. 4～ 水不足と過密の改善

①水槽の水深と水圧を改善
浅めの水深設定 + 年々低下する水圧 → 水道配管と水槽の工事で水深と水圧が改善!!
飲水の集中ですぐに水が枯渇

②搾乳の帰りに簡易の水槽を設置
飲みたい時に飲めるように配慮

③乾乳牛群の過密解消
夏季は屋外の施設を活用し、乾乳牛群の頭数を調整
分娩場所をつなぎ牛舎からフリーバーンに変更



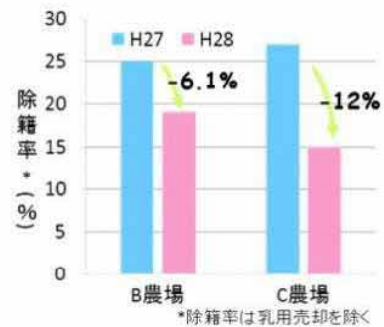
3 活動の成果

(1) 除籍率が低下

B農場 経営主
分娩後の大きなトラブルが減った！
改造にお金はかかったが、金をかけた値があった！

今年は無用が1頭もでていない！
第四胃変位になる牛もぜんぜんいない！

C農場 経営主

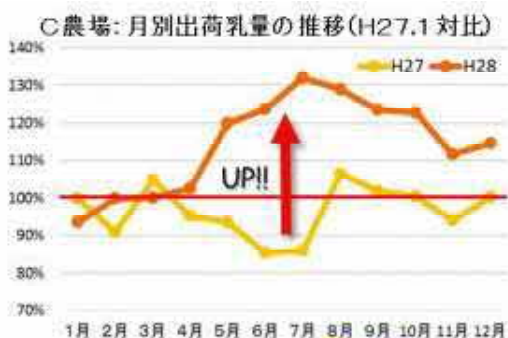
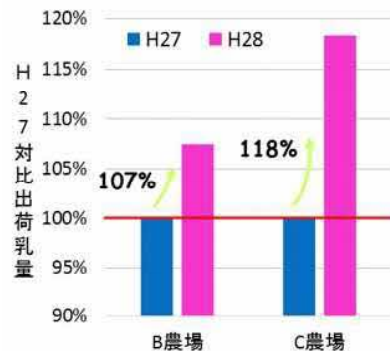


(2) 乳量が増加

B農場 経営主
ピークを過ぎてもぜんぜん乳量が落ちない！

水量が増えたら搾乳時間が長引くほど乳が出た！
水の重要性に気づかされた！

C農場 経営主



・H27年からは秋以降も安定した個体乳量を維持
・H28年の夏は蒸し暑い日が続いたが、大幅に落ち込むことなく推移

・H28の月別出荷乳量は、春先から前年を大きく上回ったまま推移
・年間の出荷乳量が、5年ぶりに増加に転じた！

(3) 地域へ成果を報告

北根室支所管内で開催された酪農セミナー（参加者90名）において、B農場の改善事例を報告した。管内の懇談会や広報誌等でもB農場およびC農場の事例を話題として取り上げ、暑熱対策や水の重要性を広く周知することができた。

